

2. 2016（平成28）年度大学認証評価結果 努力課題への対応について

基準	部局	(C) 努力課題	(A) 対応状況	(P) 今後改善すべき点 (平成29年7月25日時点)	(D) 対応報告 (平成30年3月31日時点)
(4) 教育内容・方法・成果	先端科学技術研究科	先端科学技術研究科の博士課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。	在籍関係がない状況での課程博士の学位授与については、2016（平成28）年度において、まずは先端科学技術研究科委員会メンバーへの理解を促進させ、具体的な検討は、2017（平成29）年度研究科委員会への申し送り事項とした。「早期修了の明確な基準」については、「博士課程早期修了に係わる申し合わせ」を制定し、2016（平成28）年度入学者から適用した。	2017（平成29）年度先端科学技術研究科委員長及び事務局の交替に伴い、在学生に影響を及ぼさないことを第一に、「在籍関係がない状況での課程博士の学位授与」について、2017（平成29）年度内に研究科運営委員会および研究科委員会において検討を進め、解決を図る。	平成31年度入学生より博士課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し満期退学した者について退学後3年以内に論文が受理された場合、課程博士による学位請求としていた取扱いを廃止し、満期退学後の学位請求は、すべて論文博士による学位請求とするよう関係申し合わせ条文の一部改正を行うことを先端科学技術研究科委員会（平成30年2月22日開催）にて審議承認した。
5 学生の受け入れ	工学部	工学部において、収容定員に対する在籍学生数比率が、電気電子工学科で1.21、機械工学科で1.21、情報通信工学科で1.23と高いので、改善が望まれる。	2016（平成28）年5月現在の在籍学生数比率は、電気電子工学科1.20、機械工学科1.23、情報通信工学科1.20と引き続き努力が必要な数値となっている。ただし、2016（平成28）年度に実施した2017（平成29）年度入試の入学定員超過率は、機械工学科は1.14、情報通信工学科は1.09と改善が数値として表れている。なお、電気電子工学科は入学定員超過率1.22のため、努力が必要である。ただし、電気電子工学科の場合、2016（平成28）年5月現在の、電気電子システムコース在籍学生数比率は、1.16、電子光情報コースは1.20となっている（そのほかコース制になる前の学生（2011（平成23）年度以前に入学した学生）が23名いる）。そのため、電気電子システムコースにおいて、在籍学生数比率による教育の影響は抑えられていると言える。また、電子光情報コースの在籍学生数比率1.20だが、2017（平成29）年度入試における電子システム工学科の入学定員超過率は1.09であるので、改善が数値として表れていると言える。	文部科学省や日本私立学校振興・共済事業団による入学定員超過率の厳格化傾向もあるが、重要なことは定員超過となったとしても、充実した教育を行い、教育の質保証を行うことである。在籍者数比率による超過は、単年度の施策実行だけで効果が表れるものではなく、継続実行が必要であるが、それまでの間、教育の充実等により、超過による影響を解消するための事項を実施する。	工学部電気電子工学科、機械工学科、情報通信工学科の収容定員超過是正のため、平成30年度入試より入学者調整（抑制）を行うべくシミュレーションを行い、実際に電気電子工学科、機械工学科において入学者の抑制を図った。（電気電子工学科は120名定員のところ123名入学、機械工学科は110名定員のところ104名入学）しかし単年度実施だけで解消されないため、引き続き、シミュレーションを行い、収容定員超過の改善を図っていく。